広報
しうら
昭和60年
1月号

静かなたたずまいをみせる十三湖…駐車場、遊歩道橋等の完成とともに
地域の特性を生かした新しい観光開発が、いまスタートした。

謹んで新春の御祝詞を申し上げます

本年もよろしくお願い
申し上げます

昭和六十年 元旦

市浦村役場

村長 三重貢
助役 工藤誠一郎
収入役 成田義衛
教育長 柏谷秀一
総務課長 三上常一
企画財政課長 高松隆三
民生課長 葛西安十郎
建設課長 竹谷博則
経済課長 松江幸勝
教育次長 下山時敏
実取育成センター所長 徳沢貞三
十三出張所長 三和正三
脇元出張所長兼務 村山正臣
相内保育所長 川口定雄
十三保育所長兼務 高橋浩子
脇元保育所長兼務 長利友子
津軽北部消防事務組合市浦分署長 佐藤哲也

No.203
発行・青森県市浦村役場／編集・企画財政課広報係

年頭のごあいさつ

村民総参加体制で振興施策の展開

村長　三重貢

新しい時代が求める新しい村づくりをめざして、苦悩と激しい陣痛の中から市浦村が誕生してから今年は三十周年という記念すべき年を迎えることが出来ました。

絵を描く難しさはよく承知していますが、合併にあたり私共の先達が描こうとした「地域創造」というテーマにどの程度迫ることが出来るか、その責任の重大さにいささか戦いている次第であります。

一、先づ今年は市浦村誕生記念年と位置づけ、年間を通じてその意義と連帯を強調すると共に、躍進市浦の象徴的な提点であり三十年来の村民共通の願望であった役場庁舎の建設にメドをつけたいと考えて居ります。

二、時の流れは、いま二十一世紀へむけて大きなうねりとなっていますが、その中で本村はどのような生き方と豊さを享受出来るのか、その確かな道を探し求めるため「ふるさとの未来を拓く市浦村民会議（仮称）」を設置し村民の総参加体制の中で村づくりの基本構想と実施計画づつを進めていく考えであります。

三、村の基幹産業である農林、畜産、水産業などの創造的な発展を図るため、バイオテクノロジーの技術導入や研究開発施設の誘致についても検討し進めると共に、畑作振興についても引き続き実験調査を行うほか、農家経済の安定化を図るため、新規にたん池の整備や、かん排事業を実施する考えであります。

畜産については大規模草地開発事業を継続して実施すると共に、畜産公社を設立して経営の近代化と畜産農家の飼養意欲を高め、市浦牛のブランド づくりを進めたい考えであります。

二、山村地域資源高度活用促進モデル事業の指定を受け、ふるさと木端工芸センターや、水産加工センターを建設し、地域産業おこしと地場産業の振興を図る考えであります。

五、本県も漸く高速交通時代を迎え首都圏及び全国各地との時間的距離が大幅に短縮されることから、新しい発想と手法によりエネルギー関連施設や工業誘致を積極的に進め、人口の定住化と住民福祉の向上に全力投球していく考えであります。

何れにせよ、しましても村勢の伸展には、村民皆様の旺盛な活力が必須条件であります。活力の根源は健康にあると思いますので、どうか今年もお元気に過されますことを祈念して年頭の御挨拶と致します。

村づくりについて語り合う村政懇談会

具体的な行動の年に

議長　青山又一

輝かしい新春を迎えるに当たり、村議会を代表いたします。村民の皆さまに謹んで新年のごあいさつを申し上げます。

昨年一月十五日、村民各位のご支援を得て再び村議会議員の選挙戦に臨み、さらに二月十四日の村議会では、議長の職務をあずかることになり、私にとっては最高の光栄でありました。

最近の議会運営は、複雑多岐にたってお り、その責任の重大さを痛感すると同時に議会人として、村発展のために総力を結集しなければならないと考えております。

昨年の稲作は、雪解けの遅れ、春先の低温のため田植えが遅れる等、不安のスタートで極めて重大な年になるかと思われます。

地域産業おこしをするために、遊水道構の完成、地域住民の歓業の場確保と産業集興をめざして誘致した産業振興センター建設テクニカの操業開始等、各種事業が進められました。

このような状況の中で迎えた昭和六十年は、市浦村にとって重大な年になるかと思われます。

地域産業おこしをするための基整整備、沿岸漁業の振興、十三湖中島地整備による観光開発など、村民みんなが幸せに暮らせるように、私たちはもとより、全村民が英知を出し合って、理念や夢を述べるのではなく、具体的に実行していくべき大切なときではないかと存じます。

議会としましても、議決機関としての機能を十分発揮しつつ、村民の皆さまのご期待にそうよう最大の努力をしていく決意をいたしております。

どうか、本年もより一層のご支援ご協力をお願いいたします。

皆さまにとりまして、幸せな年であります様にお祈り申し上げ、新年のごあいさつとなり、ご挨拶とします。

不振は依然として続き、漁家にとっては誠に厳しい年でありました。

一方、村の発展を願う村民皆さまの熱意とご協力で、村道整備をはじめ、十三湖中島遊歩道構の完成、地域住民の歓業の場確保と産業集興をめざして誘致した産業振興センター建設テクニカの操業開始等、各種事業が進められました。

われら満1歳
母親の期待

おもいやりのある人に

磯松・佐々木礼子さん
博幸ちゃん

満一才を迎え、ますますテーブルギャングとして磨きがかかってきたこの頃です。欲しい物を見つけたらわきめもふらず突進して行きます。勤めに出ている為、祖父母の世話になり、きかん坊ぶりを発揮している毎日ですが、掃宅するととびきり上等な笑顔でむかえてくれます。

子にかける親の期待はみな同じだと思いますが、すこやかに育ち、おもいやりのある人になってほしいと思います。

あけましておめでとうございます

本村では昨年一月、七人の赤ちゃんが誕生しましたが、その中から村内に現在居住していた五人の赤ちゃんに登場していただきました。

満一歳を迎える子供たちのようすや、子にかける親の期待など、いまの気持ちを語ってもらいました。

この子らが、のびのびと健やかに大きく育つように、市浦村も負けずに発展したいものですね。

丈夫な子に

相内・下山奈保子さん
床衣ちゃん

昭和59年冬、女の子ですよ：と言う看護婦さんの声から速いものでもう一年になろうとしています。ただミルクをのんでは眠ってるだけだったこの子が今では手足も倍以上に増え、泣いたり、笑ったり、時には怒ったり、もう歩くことも できるんですからとても不思議です。もう少し大きくなったら友だちのいっぱいいる丈夫で毎日元気に外をかけ回ってるような、そんな子供に育ってほしいと、思います。

わが家の三男坊

太田・古川美穂子さん
渉ちゃん

わが家には、男の子が三人います。渉は、その末っ子です。

二人のお兄ちゃん達と年が違わない事もあってか、毎日、毎日いじめられたり、可愛いがられたりされているので本人はとてもたくましくなって、今はお兄ちゃんがおもちゃで、お兄ちゃんから取り上げて泣かせたりもします。これからもたくましく、健康に育ってほしいと願っています。

男子誕生にホッと

相内・成田ち永子さん
耕大ちゃん

四人目でやっと男の子が授かり皆で喜んでいます。早いもので、もう一才になろうとしていますが、叩かれたり、怒られたり三姉妹に圧倒されぎみです。もう少しきかんぼうになってくれてもいいなあと思っています。期待をかけるというよりも、このまま丈夫に育って姉弟仲良く親に相談できない事でも、四人で相談し、力を合わせて厳しい世の中を渡ってほしいと願っています。

強い子に育て

桂川・秋田谷久子さん
務ちゃん

岩手県花巻市で生まれ育ち、昭和五十五年に市浦に嫁いできた私には、何もかも初めてのことばかりでした。

長男誕生に喜びをかみしめた昨年の一月、その長男もまもなく満一歳になろうとしていますが、このごろの務は、しょっちゅう〝カゼ〟をひいては、診療所を往復しています。健康で強い子に育ってほしい。親のねがいですが、子どもをもってはじめて子育ての大変さを感ずるこのごろです。

☆1985年／わたしの決意

われら丑年

さあ、今年も頑張るぞ

今年は丑年。十二年に一度めぐりくる自分の年を迎え、丑年生まれのみなさんは、それぞれに思いを新たにしておられることでしょう。

ここでは、村内に住んでおられる丑年生まれを代表し、次の十四名にその気持ちを述べていただきました。

気持をひきしめマイペースで

佐々木 松雄さん（相内）

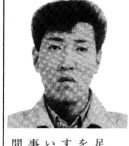
今年で五回目の年男を迎えることになりました。

年が明けるたびに、今年こそは"と心を新たに頑張ろうと思うのですが、やはり、自分の年"ともなると、その気持ちが一層ひきしまる思いがします。

年齢とともに隠しきれないのが"老化"ですが、これからは、少しずつ身体を鍛えながら、じっくり、ゆっくり、マイペースで楽しく過したいと思っています。

村発展の一助に

石岡 和人さん（脇元）



足して今年で三十周年を迎えたことにあたり、すべての村民がお祝いの気持でいっぱいの事だと思います。この間、幾多の苦難を打開し、今日の市浦村が私たち共に歩んでこられたことを、本当に嬉しく思っています。

私自身も、年男という時期を迎え、市浦村に向ける感心も深まってまいりました。これからの市浦村の発展のため、青年活動に参加したいと思っています。

卓球に力を入れる

下沢 卓司さん（太田）

ぼくは、最高学年なので、勉強や、運動に力をいれたいです。特に、ぼくたちの学校では、卓球が上手です。

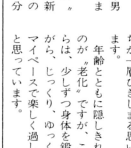
小泊大会での、五年個人戦では、ぼくが優勝しました。

市浦や、金木大会でも、がんばりました。

でも、県大会では、一回戦でまけてしまいました。

今年は、ぼくの年、卓球に力を入れて、牛のようにバリバリとがんばりたいと思っています。

健康管理の年に



藤田 功さん（脇元）

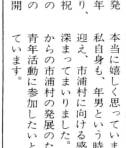
交通機関の発達により、隣りへ行くにも自転車、自動車で行き、家でも職場でも椅子といった生活が多い。二十四時間中に屈伸運動が少なく、ますます足腰が弱り体力の減退を感じている。

人間は勤勉でもあり、怠け者でもあると言われる。

「健康は宝なり」我が年六〇年を、ジョギングすることを目標とし、健康管理のもとで事に遇進したい考えである。

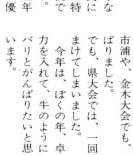
苦難をのりこえる年に

秦 れきさん（相内）



昔の人は「苦あれば楽あり」とか「七ころび八起き」とか言って苦しみのあとにつづく幸福を期待し、克服に努力してきたようです。私も子や孫の生長を願って、それぞれ人生の中で得た苦しみをどう切り抜けるかを考えながら、苦難とわずかばかりの幸福感との繰り返しの中で過していきたいと思います。今年は、そうした人とつ運命的苦難をのりこえるためがんばりたいと思っています。

何事にも活力を



吉田 誠一さん（相内）

強情で決して格好よくない、時には暴走もする。いわゆる牛である。そんな私も三児の親になりました。ここ数年、不況も手伝ってか非常に無気力であった。それが昨年の豊作、二男の誕生とふるさと条例の適用、私の活性剤になりました。村にも、テクニカが出来て道行く人もいきいきしています。

今年は村の三十周年、そして私は年男。何事にも活力をもって臨み、時には、暴走もしてみたい。

四月には中学生に

桑野聡子さん（脇元）

自分ではそうは思っていないのですが、何をやるにも、のろい」とか「とろい」といわれます。いま、改めてこのことを考えてみますと、やっぱり「うし年」生まれからかナ？と思ったりしています。

昭和四十八年三月十二日生まれで、今年の四月からは中学生になりますが、残りなくなった小学校の思い出を胸に、中学校でもがんばりたいと思っています。

牛歩でも前進する年に

山内守栄さん（相内）

牛は優しくて力持ち。ところがコチケサセれば、テコでも動かず、怒れば恐いべコ睨み。

粗食に耐え、はては美味しい市浦牛ともなる。

そして歩く様を牛歩という。細い足に重い体をささえ、ゆっくりと確実に歩む牛。

何回目？かの丑年を迎え、いつのまにか二十代の気持が薄らいでいることに驚く。

牛の優しさは持合せていても力はイマイチ。牛歩でいい、確実に前進する年にしたい。

自発的に検診に参加

三浦良子さん（相内）

村で開催した「共同保健計画会議」で話題になったことですが、検診、健康教室、衛生などの計画をしても関心がないためか、参加者が少なく三十回を割っているとのことでした。若いから、仕事が忙しいからと言って検診を受けないで、発見が遅れた人もいるようです。

自分の健康、家族の健康管理するためにも、自発的に検診、健康教室に参加したいと思っています。

第二の誕生に心機一転

奈良幸雄さん（太田）

辛抱強い根気よく、誠実な信用もあり、好き嫌いあって押気強く、腹立つ時は止めようもない。

これが丑年生れの性質であるとよう。好き嫌いをなくし、腹立ちもほどほどにしたら理想の人間になりそうだ。

今年は五回目の年男、干支の一巡で「還暦」といい、第二の誕生ともいわれる年。人間らしい人間になるため心機一転自己研鑽につとめたいとおもう。

第二の人生を歩む

村山基さん（相内）

元旦や冥途の旅の一里塚、楽しくもあり嬉しもなし

月日の立つのは早い。もうの昨年五月二十六日付けで電電公社の職を勤続四十二年十ヶ月で退きました。大変お世話様になりました。

思えば、長いようで短い感じとしています。

今年からは、老人クラブの仲間入りをさせていただき、第二の人生を健康に留意してがんばりたいと思っています。

数多くの本を読む

中島妙子さん（十三）

一つの欲求が、充たされれば、また別の欲求が現われ、充実した満足感を味わうのは難しいことだと思います。

やりたいことがいろいろあるのですが、そのうちできるだけ多くの本を、読みたいと思っています。

学生の頃はもちろん、生きている限り勉強は続きます。本を読むことは、とても良い勉強となります。これからも、本を読む時間を見つけ、多くのことを学びたいと思います。

若返り充実の年に

佐藤佐吉さん（脇元）

今年は丑年、私は十二支の事はよく分りませんし、丑年だからと言って別に大した意義も感じる訳でもありません。

丑年生れの過去六回目の丑年を迎えましたが取立てて決意、抱負と言われても思い当る言葉もありませんが、今年は平凡なことの様ですが先ず健康第一、自分のなし得る範囲内のこと、時代におくれないように知識を吸収して心身共に若返り、充実した一年にしたいと思っています。

一、二年生と仲よく通学

櫛引伸子さん（脇元）

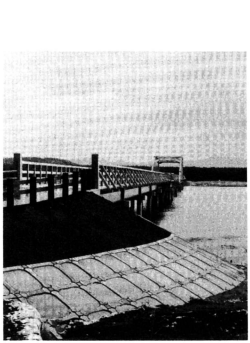
いま、小学校五年ですが、ことしは最高学年の六年生になります。いまでは、となりきんしょのおねえちゃんたちといっしょに学校へ行っていましたが、こんどはわたしが、一年生や二年生などをむかえに行き、学校に行きたいと思っています。

それから、六年生になれば勉強にも力を入れてがんばりたいと思っています。

市浦村過疎地域振興計画まとまる

計画の目玉は 地域産業おこし

都市交流による集落の活性化



昨年9月完成した中島遊歩道橋

県は昭和六十年度からスタートする過疎地域振興方針を策定しましたが、本村においてもこの方針を受けて、向う五か年間の計画を立案し、十二月の定例村議会で議決されました。

これは、昭和五十五年から始まった過疎地域振興特別措置法が五十九年度で終了するため、引き続いて六十四年度までの後期の方針をまとめたものですが、後期の重点事業としては、地域産業を興し、都市と過疎地域との交流促進による集落の活性化を取りあげています。

過疎地域は、産業および生活環境の基盤整備の遅れや、所得格差は年々他地域と縮少されているものの、依然として開いています。また、人口の流出も若年層を中心として、いきおい高齢化が進みおり、地域社会の機能が低下しています。

このため、振興方針では「過疎地域の資源、技術、人材をさらに活用し、一次産業から三次産業にわたる地域産業おこし、豊かな自然、郷土文化など過疎地域の魅力を大都市住民に提供し、都市との交流」を重点として打ち出しています。

地場資源を活用する事業として、木工・農水産加工施設の整備、都市との交流促進事業としては、十三湖中島園地整備等を計画していますが、地域振興の基本的な方向としては、次のように位置づけています。

木工・農水産総合加工センターも建設

基幹産業の振興による村民所得向上と、近代的各種産業の導入をはかるとともに、地域に賦存する資源、人材、技術を活用した地域産業おこし、地域経済の担い手である地場産業の育成、一・五次産業の振興に努めます。

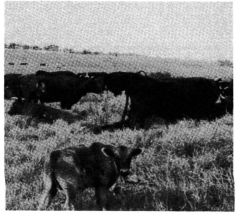
雇用の拡大と就業機会の増加に努め、他地域との所得格差を縮少させます。

若年労働力の流出と、出稼ぎに歯止めをかけるため、企業誘致を積極的に進めます。

恵まれた自然的立地条件に応じた地域の特性を生かし、新しい観光・レクリエーション開発を計画的に進めます。

第一次産業から第三次産業にいたる複合的経営に基づいた生産性の高い活力のある村づくりをします。

生産性の高い活力のある村



広大な牧場で、のんびり草をはむ市浦牛

健康で安心して生活できる明るく美しい村

日常生活の場である生活環境施設や社会福祉施設を整備します。

住民のふれあいを通じて、明るく住みよい文化的生きがいのある地域社会をつくるため、教育活動の強化とあわせて、物心両面にわたる地策を講じ、誰もが住みたくなるような魅力ある地域社会をつくります。

住民のいのちと健康を守るため、開業医の誘致も含めた地域医療の確保と保健予防体制の充実をはかります。

環境美化宣言の村にふさわしい住民主導の美化運動を積極的に進めます。

地震や災害予防についても、地域の総点検のもとに、安心と安全をテーマにした村づくりを進めます。

いのちと健康を守るため、健康相談、保健活動が積極的に行われている

人間性豊かな まとまりのある村

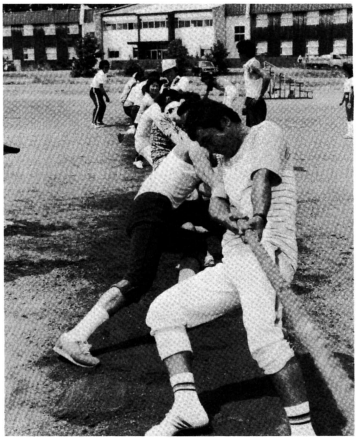
美しい自然と豊富な歴史的背景の中から、文化的で潤いのある快適な居住環境を創り出し、自然と調和のとれた定住の場とします。

住民自らが共同で地域課題の解決に努め、あたたかい人間的なふれあいのある連帯感に満ちた地域社会の形成をはかるとともに、コミュニティづくりの推進と、次代を担う人材養成を進めます。

伝統的な文化の発掘「十三の砂山踊り」や相内の「坊さま踊り」「脇元岩木山大祭」などの伝統芸能の保存、育成発展に努め、地域の連帯と若者のふるさと意識の高揚をはかります。

恵まれた豊かな自然、伝承された文化、習俗などの認識こそ、地域再生の原点であることをふまえ、都市との交流をはかります。

高齢者対策を単に弱者救済や敬老の視点からだけでなく、地域活性化の過程の中で、高齢者の社会参加、人材活用事業の開発促進、在宅サービスの強化など、日常生活の中で生きがいを感じ、地域社会の発展に貢献できるような施策を展開します。



村民体育大会の綱引き一連帯感に満ちあふれた地域社会の形成は村民1人1人の力が必要です。

謹賀新年

昭和六十年 元旦

かがやかしき新春を迎え、
謹しんで皆様のご清福を、
およろこび申し上げます。

市浦村議会

村議会議長　青山　又一
（総務常任委員）
村議会副議長　笹山七三郎
（教育民生常任委員）
村議会議員　福井　俊美
（総務常任委員長）
村議会議員　伊南　忠雄
（総務常任委員・西北五精神薄弱児地設組合議員）
村議会議員　三和　久
（産業経済常任委員会副委員長）
村議会議員　奈良　正勝
（教育民生常任委員）
村議会議員　浜田　春士
（総務常任委員会副委員長）

村議会議員　三上　敬司
（土木常任委員・津軽北部老人福祉事務組合議員）
村議会議員　工藤　武則
（産業経済常任委員）
村議会議員　成田　長代
（土木常任委員会副委員長）
村議会議員　木村清左衛門
（土木常任委員）
村議会議員　村元　則美
（産業経済常任委員長・西北部消防事務組合議員）
村議会議員　島津　典明
（土木常任委員長・津軽北部消防事務組合議員）
村議会議員　木村　義光
（産業経済常任委員・津軽北部消防事務組合議員）
村議会議員　葛西敬太郎
（教育民生常任委員長）

村議会議員　三和　芳次
（教育民生常任委員会副委員長・津軽北部老人福祉事務組合議員）

いま、確かな未来へ歩み

太田小学校体育館完成
桂川へき地保健福祉館完成
5　十三小学校「白鳥保護」で林野庁長官より感謝状が贈られる
8　相内小学校プール完成
十三小学校創立100周年
9　第１回村民健康会議
49．3（1974）　磯松公民館完成
津軽北部消防事務組合市浦分署庁舎完成
7　太田小学校プール完成
8　十三小学校完成
50．3（1975）　津軽国定公園指定
4　雇用保険法スタート
11　十三湖クリーン大作戦
51．3（1976）　市浦村国保診療所完成
実取育成センター完成
11　脇元小学校創立100周年
52．8（1977）　市浦村基幹集落センター完成
相内小学校創立100周年
9　太田地区へバス路線開通

●念願かなって太田地区にもバス路線が開通しました

10　あすなろ国体炬火、自転車ロードレース十三橋を渡る
市浦牛、全国肉用牛枝肉共進会で4年連続特選
サケ、マスふ化場完成
53．8（1978）　脇元小学校プール完成
十三湖クリーン作戦
54．2（1979）　脇元保育所完成
6　環境美化宣言の村および憲章採択
7　十三小学校プール完成
10　簡易水道全地域給水完了
十三湖大橋開通　延長 234m
55．1（1980）　十三～相内間バス路線開通
3　十三保育所完成
6　故三和精一代議士顕彰碑建立
8　十三橋委消す
異常低温冷害対策本部を設置。衆議院議員農林水産常任委員会一行視察（被害額４億４千万円）
9　民謡 十三の砂山碑 建立
10　暴風雨、高波で脇元漁港・漁船３隻沈没、11隻大破

●木橋に代って登場した十三湖大橋の開通式は村あげての祭典となりました

56．4（1981）　防災行政無線局開局 “防災しょうら”。
8　台風15号直撃、集中豪雨、住宅７戸床上浸水
稲作に約２億３千万円の被害
9　B＆G財団市浦海洋センター（体育館）完成
57．6（1982）　県広報誌コンクールで「広報しょうら」準特選
8　B＆G財団市浦海洋センター（艇庫）完成（大沼地区）
市浦村コミュニティセンター完成、開館
11　市浦村老人生きがいセンター完成（脇元地区）
12　日吉神社境内「山王坊跡」発掘調査
58．5（1983）　日本海中部地震マグニチュード7.7
津波襲来十三湖での釣り人６名死亡
6　県立金木高等学校相内分校軟式野球部県大会で優勝。全国大会でベスト８
8　B＆G財団市浦海洋センター（屋内プール）完成
9　県立金木高等学校相内分校創立30周年
第１回「あなたと語る村政懇談会」開催
「ふるさと定住対策条例」制定
10　第２回「あなたと語る村政懇談会」開催
11　知事と語る集い開催
12　市浦村山村広場（野球場）完成
企業誘致「津軽テクニカ」基本協定締結
59．2（1984）　公設民営方式による誘致企業第１号
産業振興センター「津軽テクニカ」操業開始
従業員38名

●公設民営という市浦方式で誘致された「津軽テクニカ」では、百三十五人の従業員が働いている

5　日本海中部地震「津波の塔」建立除幕
8　平和観音像開眼
B＆Gスポーツ東北大会十三湖を主会場に開催
9　市浦村産業振興センター「津軽テクニカ」工場拡張で200人体制へ
10　市浦村産業振興センター「津軽テクニカ」の製品米国へ向け初出荷
十三湖中島遊歩道橋完成。中島観光スタート

市浦村誕生30年の

市浦村は、昭和三十年に誕生して、今年で満三十歳を迎えます。

一口に三十年と言うものの、いろいろなことがありました。苦しい日の繰り返しもありましたが、過去三十年間をふり返ってみますと、村民が一体となって切り開いてきた足跡がみられます。

村民一人一人のエネルギーが、これからの市浦を築きあげると信じています。

ここでは、広報でみる三十年間の足跡をたどってみることにしました。

年　月（西歴年号）	おもなできごと
昭和30. 3（西歴1955）	相内・脇元・十三合併、市浦村誕生（昭和30年３月31日合併）
31（1956）	市浦村役場庁舎建設（1,917千円）
32. 8（1957）	広報しうら第１号発行 新村建設５ヵ年計画策定（新農山漁村振興計画）
10	寒冷地農家へ農林省で牛を無償貸付け 太田鏡開拓地区電気施設。無電灯地区解消 十三湖南突堤灯台完成（工事費1,800千円）
33. 1（1958）	新村建設審議会発足 市浦村社会福祉協議会発足 畜産事業スタート
34. 9（1959）	十三橋完成　延長 395m 公営住宅完成（十三地区15戸、脇元地区５戸） 相内中学校移転

●西北両部を結ぶ木橋と大型船が入港した十三湖水戸口附近

35（1960）	十三地区にも水田。明神沼周辺に市浦営林署から試験用１反歩の貸付けを受ける
7	南米移住者（太田地区丸山光雄氏、家族６人）の激励会
9	全村教育研究大会
10	きょ出制国民年金届出開始
36. 6（1961）	国有林230haが解放、畜産振興本格化する 和牛40頭の貸付（事業費400千円）
37（1962）	太田小学校増築 役場庁舎改築 牧野改良整備

●いまはその面影もない脇元海岸

38（1963）	相内開拓、15ha の畑地転換 十三湖干拓農地配分60町歩 白鳥を守る会設立
40（1965） 12	脇元・相内農協合併し市浦農協となる 相内地区に臨時保育所開設 脇元公民館完成 十三小・中学校給食室完成
41. 4（1966）	脇元・十三地区に臨時保育所開設 家庭健康大学講座開講
9	肉用牛のチャンピン誕生 十三の砂山老人会、十三暁老人クラブ結成 相内保育所完成
42（1967）	原子力発電所誘致について、村議会全員協議会で決定
12	相内児童館完成 患者輸送バス購入
43. 4（1968）	緑のおばさん３人を配置
7	市浦村農業協同組合事務所完成
44. 1（1969）	食管制度を守る市浦村民大会 250人参加
4	相内、脇元、十三中学校が統合発足
6	市浦中学校の校章制定
8	市浦村農業協同組合準低温倉庫完成（19,500俵収容）
45. 4（1970）	常駐保健婦配置
7	相内地区簡易水道完成給水開始
8	市浦統合中学校完成、寄宿舎完成「青雲寮」と命名

●H字型のモダンな中学校は県内でもめずらしかった

11	太田地区生活改善センター完成
12	十三公民館完成
46. 7（1971）	役場の行政機構改革、４課２室に
10	交通指導隊が編成 村道相内～十三線完成
47. 3（1972）	脇元小学校完成
8	小泊、市浦農協合併予備契約に調印
10	津軽北部消防事務組合に加入、市浦分署発足
48. 2（1973）	小泊・市浦農協合併
3	相内小学校桂川分校65年間の歴史を閉じる

今年は丑年

今年は丑年、あなたは牛というとどんな連想をしますか。のんびり、のっそり、それとも厚いビフテキ、牛肉の質易自由化問題、と思いはさまざまでしょう。

近ごろ、若い人のマスコットとして、なぜか白と黒の牛が流行しています。牛が役牛として田畑を耕していたのを見たことのない若者たちには、牧場でのんびりと暮らしている乳牛は、童話の世界に出てくるようなペットとしてのイメージが強いのでしょう。しかし、歴史をさかのぼってみますと、牛は、ペットどころか、新技術"だったことが分かります。

牛に引かせたすきによる耕作は、紀元前三〇〇〇年ごろ、メソポタミア（現在のイラクを中心とした地域）やエジプトで、"発明"されていたそうです。

この新技術は、くわによる耕作に比べ、はるかに広い田畑を深く掘り返すことができ、農業の生産力に革命的な進歩をもたらした、ということです。その後、農業のほか交通、運搬などにも牛が用られるようになりましたが、これは人間が自分の肉体以外の力を動力に利用した最初の試みの一つだとされています。そして、十七・十八世紀になって蒸気機関が発明・実用化されるまで、牛をしのぐ技術上の進歩は見られないといいます。

牛が新技術として"起臨"してきたかが分かりますね。

とはいえ、最近では、めったに牛の働く姿が見られなくなりました。かつての耕作機も、いまやすっかり耕うん機などに、その座をうばわれてしまったようです。

さて、今年の丑年、モ・ウ・烈に生きるもよし、のんびりと人生を反芻しながら生きるもよし、ともかくも角つき合わさずに仲よくいきたいものです。

薬と健康

使う前に能書きを読む

薬には、それぞれに適した飲み方や使い方があります。

薬を使用するときは、袋などに書かれている指示に従いましょう。

決められた量を守る

決められた量を守らなければ、薬の効果は得られません。症状が重くないから少量でいいから、多く飲んで早く直そうなどという思い込みは危険です。

時間を守る

量と同様、時間を守ることも大切です。食前、食後、食間とは、次のようなことをいいます。

食前＝胃の中に食べ物が入っていない時（食事の一時間～三十分前）

食後＝胃の中に食べ物が入ってるとき（食後三十分以内）

食間＝朝食と昼食の間など次いかの、多くの食事をするその間。

また、八時間ごとなどと、時間で指定されている抗生物質のような薬もあります。抗生物質は、病気の原因になっている細菌を殺す薬なので、体内の薬の量を一定以上に保つ必要があります。必ず服用時間を守りましょう。

あれこれ飲まない

現在、飲み続けている薬があって、別の薬を飲まなければならないときは、医師に相談しましょう。

保存は子供の手の届かないところへ

古くから、「砂の浜」と呼んでいましたが、青森地方の海岸を、「合の浦」と呼んでいました。

津軽地方の西海岸一帯は、昭和二十八年施行の町村合併促進法に基づいて、昭和三十年三月三十一日、北津軽郡相内村、脇元村、西津軽郡十三村の三村が合併して、市浦村が誕生しました。

この市浦村の名は、江戸時代の「十三湊」と、「十三の浦」の町として保たれています。

相内、脇元、十三もこの良港に社会的にも経済的にも大きく依存し、住民の多くも古くから、その名に親しみとなつかしさ、誇りをもっているとするため、本来は「四浦」とするのがふさわしいであり、ふさわしいとしたのだが、「現在の港の名称は、「市」に替えて「四」を「市」にとしました。

言葉の履歴書

―ゲンがいい―

新年早々、クイズに当たったりすれば、ゲンがいい、ということになるでしょう。

この「ゲン」を辞書でひいてみると、「験」という漢字が当てられています。

「験」はもともと仏教で修行を積んだ人などが、祈祷（禱）による効きめを意味する言葉でした。「霊験」「効験」などの「験」です。

それが吉凶を示す前兆、縁起の意味にも使われるようになりました。ただ、「験」の場合の「ゲン」は「験」からではなく、「エンギ（縁）」を逆さまにした俗語「ギエン（起縁）」が縮まって「ゲン」になったとする説が有力です。「起縁」は浄瑠璃・鎌倉三代記」に「御病人起縁の悪い事いうた。気にかけて下さんすな」とあるように、江戸時代の使い方では「縁起」の意味に使われました。

これは「起縁直し」という語例もあるように、凶兆に対する場合が多いので逆さまに言うようになったと考えられます。

村名の由来

深浦、青森を四つの良港「四浦」と称し、この呼び名は「十三四浦」の町として保たれています。

良港には社会的にも経済的にも大きく依存し、住民の多くも古くから、その名に親しみとなつかしさ、誇りをもっているとするため、本来は「四浦」とするのがふさわしいであり、ふさわしいとしたのだが、「現在の港の名称は、「市」に替えて「四」を「市」にとしました。

―広報しろいし第八号から―